

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第9回高松市創造都市推進懇談会（U40／第3期）
開催日時	平成30年11月26日（月） 18時30分～20時40分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	（1）事業報告会に向けたグループワーク （2）第3期の振り返りについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	徳倉会長、坂口副会長、大美副会長、児島委員、田中司委員、田中祐委員、瑞田委員、西谷委員、宮井委員、吉岡委員、若宮委員、渡邊委員
市職員	藤本、時高、小松、末澤、森、田村、住吉、美濃、杉原
事務局	佐々木局長、長井参事、田井部長、西岡課長、佐野補佐、三浦係長、松下
傍聴者	1人（定員5人）
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

審議経過及び審議結果

1 開会

【副会長】

会長は30分ほど遅れて来られる予定です。

2 議題（1）事業報告会に向けたグループワーク

【副会長】

それでは事業報告会の概要について、事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料1について説明）

【副会長】

只今の事務局からの説明で質問等はございますか？

（質問等なし）

審議経過及び審議結果

【副会長】

それでは事業毎にグループワークを始めてください。

(4つの事業毎にグループワーク)

【会長】

皆さん、そろそろ時間とさせていただきます。遅れて来てすみません。今、グループワークをしていただいたので、全体で共有する時間を取りたいと思います。

【副会長】

(パラ陸上事業について) リーダーが本日欠席ですので、私から報告させていただきます。あらかじめリーダーからレジュメをいただいていたので、それに沿ってグループワークを行いました。先ほど事務局から説明のあった来年の事業報告会について、どんな発表をしてほしいのかの洗い出しをまず行い、市としての要望を聞いたところ、「今回、「CAN MAP」を作成した効果・実績・今後の課題があれば望ましい」とのことなので、その3本柱を基に意見出しを行いました。効果・実績に関しては、数値化できるもの出来ないものが色々あり、マップの配布数や配布に関わっていただいた店舗数、あとはインターネットでのアクセス数だとかは数値化ができるという話をしていました。メディアに取り上げてもらったことも目に見えやすいですが、ただ、どちらかという目に見えない効果・実績をチーム内で議論しました。リーダーの主導の下、実際にお店に取材をさせていただきに行き、入り口などをメジャーで測ったり、「日本パラ陸上競技選手権大会」というものがあることを知っていただきました。あるお店では「自店では段差があるから車椅子の方が来られても困るかもしれない」との話があったが、そのことを分かったうえで「こんなことをお願いできませんか」「こんなことができるんですよ」といった提案もできました。それも受けて、私たちのチームには出場選手がいるので、選手間の話の中で「高松の開催はすごく良かった」という生きた情報を今提供いただいたので、この事業をやってよかったと、チーム内で話をしていたところです。

今後の展望としては、ひとまず日本パラ陸上選手権大会は終わってしまったのですが、今チーム内で話が出てきているのが、街の段差について、この事業に関わらなければ、あまり気にならなかったところでした。そういった気付きが、例えば、今後高松市が公共施設を改修又は新しく作る際に、ちょっとしたヒントとして生かしてもらえることがあれば、新しい広がりになるのではないかとのお話がありました。チーム内の総じた感想としては、リーダーに頼ってしまったところが多かったんですがみんな最後まで達成することができた、さらに一番喜んでほしい選手や高松に来られたお客様に喜んでもらうことができたことが良かった、といった意見でした。以上です。

【委員】

仕事PJ事業について、事業報告会に向けてというところですが、事業自体が今週末に最終報告会が残っているので、その見方によって事業報告会の中身が変わってくる可能性があると思っています。現状としては、10月の三連休の時に参加者10名で合宿をやり、末澤さんを中心に副業に関するヒアリングをかけたイベントといった、大きく二つの方向性からやらせてもらったのでそれを伝えていくことになると思っています。合宿については、新しい仕事を作っていくという前提の中で、そもそも高松に関わっていくやり方が見えてこないという声が一番大きかったので、人と情報・プロジェクトを載せていくWEBサイトを今立ち上げており、最終成果として話ができていけるかなと思っています。

現在、最終的な詰めのところをしているところですが、来年は市の予算がないというところで、ランニングコストの部分を私の団体等で負担をしながらフォローアップを進めていけたらいいなと思っているので、来年どのくらいのプロジェクトをWEBサイトに載せていければいいかという話も、事業報告会にはできるかなと思います。あと実際に末澤さんを中心にイベント等でいろんなヒアリングをしているところなので、アンケート等の結果もお伝えできる。それによって、単純に就職するところ以外の、ダブルワークの複業も含めてそういった柔軟性を高められるような仕事の仕方を報告できたらいいのかなと思っています。

全体的な大きな反省の部分として、この仕事PJ事業のチームについては、私がリーダーをやらせてもらったのですが、一番申し訳ない点が、夏以降私自身仕事の中身が結構大きく変わって、コミットする率を大きく下げてしまったことが、大きな反省だと個人的に思っています。私が動けなかったことで、チーム員の負担がすごく大きくなってしまって、かつ、色々な変更点がたくさん出てしまった部分があったので、最初の計画等々のところから見えにくいチームではあったですけども、そこはチームの皆さん又はU40の皆さんに大きな負荷を与えてしまったなと思っています。事業報告会までは、できることをしっかりコミットしていければなと思っています。以上です。

【委員】

情報発信チームは、モニュメント以外にもハッシュタグカードを作るという事業が残っているので、前半は、メンバーとどういった発表にするかとか、どういう仕様にするかとかといった話をしました。事業報告会については、他のチームと同じ部分が多いのですが、目に見える成果というSNSの投稿数だとかそういうのでは数値化できるのですが、そこではない部分がたくさんあるので、自分自身どういうふうな報告しようか悩んでいたのも、それをテーマに相談させてもらう時間にしました。情報発信チームは、私がリーダーとして引っ張っていくというよりは、みんなで考えながらまとめていくっていうスタンスをとっているんで、この時間はみんな色々考えて報告会に向けての方向性を決めましたので、今日の段階ではそんなにまとまってはないのですが、もう少しそのハッシュタグカードの件とモニュメントの件とメンバーに時間をもらいながら進めていけたらなと考えています。以上です。

【会長】

皆さんの発表について、いくつかコメントさせていただきます。そのあとは、

第3期の振り返りというところで皆さん一人一人にコメントをいただきたいと思います。この第3期で終了の方は、2分程度お話しください。第4期も引き続きの方は、1分程度でお願いしますので、その準備をしながら私の話を聞いていただきたいと思います。

工芸ウィーク事業にはまた同じことをお伝えするのですが、パラ陸上事業も仕事PJ事業も情報発信事業も最終報告会の中でどういう部分に対して報告しているのか、効果・効能が見えないといったニュアンスがあったのですが、効果・効能は出ています。効果・効能が出てなかったらこれだけ反響がなかったというか、はっきり言うとメディアに一切取り上げられません。話題性だけでは、メディアの人が複数来たりだとか、全国媒体に載るとかいうことはまずないので、それは効果・効能があるということに、当事者たちが気付いてないケースなので、そこはもうちょっと突っ込んでいただきたい。そのときに気をつけていただきたいことは、定量的なものと定性的なものの二軸で発表していただくとうれしいです。定量的なものだと例えば「#upTAKAMATSU」だと「いいね！」が1,000ついているだとか、フォロワーが何人いるだとか。仕事PJ事業だとこういうイベントに10人来てくれた、他の団体がやるところだとこれぐらい来るけど、自分たちはこれぐらい来ているとか、他の自治体だと何人だとか、比べられるものを出してほしいです。

次に、定性的なものだと、例えばパラ陸上事業だと非常に分かりやすく、先ほどの発表の中で少し触れていただいたのですが、地図を作成する調査の際、いろんな御協力いただいたところから色々な声があって、実はパラ陸上競技選手権大会自体を知らなかったと。それを知ってもらおうというところの活動から始まっているということも、大きな付加価値なんですよね。また、チームには選手として出場された委員もいるので、プレイヤー側としてもすごく良かった。実はNHKの全国放送のものを見たときに、プレイヤーの評判が良かったというものがあって、スポーツライターの方が別で記事書いているときに「CAN MAP」を取り上げており、他の会場にはなかったけどこれは素晴らしい良かったと全国媒体に乗っている。これは定量と定性の両方を含んでいるんですけど、やっぱりその定性的なものとして、「高松」というものが共生社会ホストタウンになってこれから進んでいくってなったときに、こういう土壌ができて来ているんだと、そういうストーリーで発表してもらいたいなと思います。

単発になってくると単年度だけの事業になってくるので、見えにくい部分もあり、これが3つ目になってくるが、この定量と定性で出してきたものを、じゃあ次年度以降自分たちができないかもしれないけれど、他のパラ陸上事業だとスポーツ振興課がやってくれるだとか、情報発信事業だと広聴広報課さんがやってくれるだとか橋渡しができるようなプレゼンにしてほしいなど。自分たちはできないけれども、仕事PJ事業だと政策課が移住に絡めて何か一つ仕込んでくれるみたいな、そういう橋渡しができる場としてプレゼンの内容を考えてもらうと、僕らだけで打ち上げ花火で終わりましたじゃなくて、僕らにつけていただいた予算が市の中の政策に生きてくる、そのDNAが培われているんだっていうようなものを見せていく必要があるのかなあと考えています。

なので、ちょっとそここのところは今日の1時間では足りないと思うので、全体で集まるのは今日ですけど、みなさんそれぞれまだ集まる予定があるはずなので、その中でちょっと詰めていってほしいというのが私からのコメントで

す。

3 議題（２）第３期の振り返りについて

【会長】

それでは、第３期の振り返りをしていきたいと思います。集合写真時に使用する用紙を配付するので、寄せ書きに書くような内容を記入していただきながら進めたいと思います。今回の第３期で終了する方からお願いしたいと思います。

【委員】

第２期と第３期の４年間でやらせていただき、どうもありがとうございました。普段は農家なので、あんまり異業種の方とか、他のお仕事の方とお話しする機会がないので、そういう意味では全然関係のない方とお知り合いになれたのは、すごくありがたかったと思います。農業ってすごい狭い世界なので、そういう中でここにきていろんな人のお話を聞くことができたことは、自分にもとても役に立ったと思います。U４０の中で、自分は何ができたのかなってところはすごく微妙なところなんですけど、一応それなりに会に出たり意見を言ったりしたりした機会をいただけたのは、すごくありがたかったかなと思います。

U４０に参加できて一番良かったことは、パラ陸上競技選手権大会に出場された委員が優勝できたこと。それはやっぱり、みんなで応援しつつ、パラ陸で事業をし、プレッシャーがあったと思う中、見事に優勝された。それが本当にU４０で良かったことです。ぜひ金メダルを目指していただきたいと思います。本当に楽しいU４０の時間を過ごさせていただきました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【市役所U４０】

私は、第３期の期間中に異動があつて、ちょっと参加率が下がってしまったんですけど、第１期・第２期の活動を正直そこまで知らないまま、第３期からU４０に関わらせていただきました。率直な感想としては、民間の方々の民間のパワフルさであるとか、スピード感であるとかを間近で見させていただいて、付いていくのに精いっぱいだったと思っております。先ほども、グループで話してたんですけども、やっていることは素晴らしいことなんですけど、我々市役所の人間が入っているにも拘らず、市の他の局や課の人間はあんまり気付いてなく、あんまり関わろうともしない。ただ、このU４０の活動をずっと続けていくことによって、市役所の何も気付いてないような人間に、どんどん気付かせて、どんどん巻き込んでいって、何らかの化学反応が起きたらこのU４０という組織がよりそこで輝けるかなって思っているところです。この２年間どうもありがとうございました。御世話になりました。

【委員】

私も４年間こちらで御世話になりました。最初を思い出していると創造都市とかU４０とかは敷居が高いのかと思っていて、分からないこともあったんですけども皆さんと話しているうちに、だんだんできるようになっていきました。U４

0をやってみて、皆さんと協力してやるのが大事なのかなと思いました。いろんなこと新しいことをゼロから作るのは大変ですけど、大体、これまでの経験とか人脈とか皆さんが普段やってることにちょっと足すだけで、いろんな変化とか新しいものができたりしますので、これからもそのことを忘れずに行きたいなと思います。皆さんこれからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【委員】

私も第3期の2年間を務めさせていただきました。このタイミングで、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定もそうですし、メンバーとしてこの高松で日本パラ陸上競技選手権大会が開催されたこともそうですし、本当に私にとって巡り合わせが多かったと思います。皆さんも本当に温かかったし、このマップの本来の趣旨である、高松にまた来たい、そして選手に喜んでもらえたというところが、本当にいろんなところに行っても聞こえてきますし、私自身、選手として高松で活動してよかった、U40に入ってよかったと思っています。第4期も引き受けさせていただくことになっていますけども、2020東京オリ・パラもそうですし、来年、中四国パラが来年6月に屋島で開催されますので、またそこにも何らかの形で皆さんに御協力いただくこともあるかと思いますが、その際はよろしく願いします。本当に皆様ありがとうございました。

【市役所U40】

私も第3期として初めて入らせていただいて、第2期の時に市役所のU40を募集していたのは知っていたんですけども、第3期が最後のチャンスだと思いここに飛び込んでみました。飛び込んでみて、市役所の中の狭い人間関係の中では知ることができなかつた、高松でいろんな活動をされている人のことを知ることができて、とても良い経験になりました。U40としては終わるんですけども、図らずしも、事務局として引き続き御世話になることになっています。今後は皆さんの力を何とか、市の施策等に生かしていけるように心を砕いてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

【市役所U40】

私がU40を知ったきっかけが大学生の時だったんですけど、第2期の公開U40で聴く側として参加させていただいたのが初めてで、実際、高松市役所に入庁した1年目に第3期を募集しているところを見まして、迷いなく応募させていただきました。同じ職場の方がいる安心感があったことと、市役所に入ると、民間の方とかかわる機会が断然減るだろうと思っていたので、こういった形で参加させていただいて皆さんと関わらせていただいたことは、かなり自分の中で大きな財産になったかなと思っています。来期は私の先輩が委員に加わるということで、かなり盛り上げていただけるのかなと思っています。以上です。

【市役所U40】

皆様4年間ありがとうございました。私も卒業ということで、私の動機は極めて不純で、仏生山をアピールすることだけのために参りました。U40のおかげでいろんな方と出会えて、広い視野を持てるようになりましてし、いろんなこと

を協力していただけるようになりましたし、仕事でも助けていただき、仏生山といえば私だろと中でも外でも声をかけていただけるようになりました。最後の言葉でも仏生山とだけ書いて去ろうかなと思います。皆さん本当に4年間ありがとうございました。

【市役所U40】

4年間続けさせていただいて、無事に卒業できました。私の動機は、当時の担当者が困っていて、一緒にやろうかと思ったのがきっかけでした。幸い、その前に私自身、四国経済産業局に出向させていただいて、40歳以下の若い人たちが頑張っているということを知っていたからこそ、今楽しく付き合っている人たちが多いただろうなと思っています。すごく感じたこととしては、U40の枠としてずっと議論し続けていることっていうことは、ある意味大事なのかなと。初心に立ち返るじゃないですけども、私たちはどうやって行ったらいいのかっていうところを、引き続き考える方向も大事だと思います。ですが、ある一定のU40はこういうことをしていこうっていうフラグもやっぱりほしいなというのは、4年間やった側としての意見です。こうやってU40が知られば知られるほど、U40というだけでよく分からない期待感がかけられているところもあると思うのですが、そういう期待感とかはある意味、前向きに受け取って新しい活動や連携が生まれていったらいいなと思っています。

その一方で、こうやって会議を続けたり、プロジェクトをやるにあたって、コミュニケーションと時間の大事さをすごく感じた一年半でした。お互いコミュニケーションがとりやすくなった一方、連絡不足というところが自分自身も気を付けないといけないし、お互いの時間を使っているというところと、メッセージの取り合いとか情報共有とかは大事だなというのを感じました。私たち市役所であれば、個人的な仕事が多く、一担当で終わってしまう仕事が多い中、チームとして動けたというところは、私自身、気が付けたところだと思っています。それを財産だと思って、今後行かせていきたいと思っています。以上です。

【委員】

私は来期も続投ということなんですが、正直、転職してからはあまり多くかかわれなかったことがあります。来期はもう少し爪痕を残すではないですが、活動に力になれるように働きかけができるようにしていきます。引き続きよろしくお願ひします。

【委員】

私ももう一期続くのですが、仕事PJ事業のリーダーをさせていただいて感謝と申し訳なさの両方があるかなと思っています。一つは、先ほどもお伝えはしましたが、仕事PJ事業自体は、企画があまり固まっていない状況でチームを編成したので、メンバーの人からまず何をしたいのかというヒアリングをするところから始めました。聞き取りの結果、「起業」・「副業」・「事業承継」という話で進めていったんですが、トータル3つを見て、普通の就職というところだけでなく、仕事の働き方・種類自体を増やしていこう、ということを中心に作っていったチームになりました。ただ、私自身が、他にもベンチャー企業の役員クラスの仕事をしてしまっているんで、せっかく皆さんが出してくれたアイデアを十

分に形にし切れなかったなという申し訳なさは、今すぐ残っています。第3期に関しては、こういったプロジェクトを今からでもできる形にしていけないといけないなと、そういう自分が動けなかった中でも仕事PJとして形に残ったのは、今ここにいる4人のメンバーが動いてくださったからというのは思っていますので、その申し訳なさと感謝の両方を伝えながら、第4期でもできることを微力ですけどやっていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

【市役所U40】

私は第3期の途中からU40に参加させていただきました。最初は意識高い系の人たちの集まりということで、今もすごく緊張してるんですけど、こういう場で皆さんと関わったことは、自分にとっても勉強になっています。今年はリーダーを中心として「たかまつ工芸ウィーク」を開催できました。来年以降もこれを継続できるように、自分自身の用務などに学んだことを生かしていきたいです。

【市役所U40】

私は、高松市役所を受けたきっかけ自体がU40でした。一部の委員の方と入る前から知り合いだったんですけど、活動を見ていて入りたいと思っていたので、ちょうど入れて、こんなふうにならなくて、本当に入ってよかったなと思っています。ただ、自分の業務の都合であったりとかで、会に出席できなかった時だとか、情報発信事業についてもリーダーに頼りっぱなしだったりとかで、なかなか上手に動けてないと自分では思っているのです、来期は仕事の調整を付けて頑張りたいなと思っています。よろしく申し上げます。

【委員】

私も、来期も継続させていただく予定となっております。私自身はU40の元委員からの御紹介で、入ることになりました。宮井リーダーをはじめこちらのチームの方に、いろいろ学ばせていただいたと思って、振り返ったときに自分は割と何もできていなかったということが感じとして残っています。自分事なんですけども、来年、瀬戸内国際芸術祭があるということで、今の時点から仕事が追い込まれている時期には入っています。前職の会社と縁があって、具体的に言うと、瀬戸内国際芸術祭オフィシャルツアーというものをします。初めて公式ツアーというものが出るので、高松の屋島あたりが瀬戸芸の会場になっています。ただツアーとして、噛みにくいところがありますので、おそらくオブショナルツアーだったり、現地の方に御協力いただいてツアー組みを旅行会社がそれぞれするようになり、そこに前職の会社がオプションで作る可能性があります。もし、そういうのを利用していいのなら、来年のツアーに向けて情報発信事業にはなりますが、もうちょっと生の現場に入っていき、お客さんとハッシュタグをつなげていく機会を作れていたらいいなと思っています。来期もどうぞよろしく申し上げます。

【市役所U40】

私は第2回の会議から入っていて、だいぶ毛色の違うところからスタートしているんですけども、個別には、それぞれ工芸ウィーク事業のおかげで子供と一緒に

に作品見に行こうっていう話になったり、パラ陸上事業では子供と一緒に関わらせていただいて、初めて陸上競技っていうものをフィールドで見ることができましたし、こういう機会がなかったらまずなかったのかなと思っています。入った時から思っていたんですけども、この創造都市っていう場を高松市が推す中で、本当に市民に対してどれだけ落ちているのか、市民視点で創造都市に生きているっていうのが実際どうなのかなというところを常々思っています。私は関わったおかげでそういうのに行きましたけど、一般の人たちが、パラ陸上競技選手権大会があること自体を知らなかったというのがあるようなので、そのためのU40なのかなって思いますし、もう少し突き詰めていけると市全体というか、そこに生きる人として楽しい人生を送れていける、「豊かな暮らし」につながるのかなと思います。そこのところをしっかりと突き詰めてみんなの意見なりアイデアで、しっかりと作り上げていけると、より懇談会としても価値あるものになっていくのかなというのがやっていきながら感じていたところでもあります。今後とも、よろしくお願ひしたいところでございます。

【市役所U40】

感謝の言葉とか伝えたいことがたくさんあって、うまく言葉にできないんですけども、思えば2年前にやりたいことがたくさんあって、何かしたいなと思って応募したというのがきっかけでした。今思えば、どのぐらい時間割けるのかとかどういうことができるのかとかといったことを明確にしたうえで、応募できていたらもっと違ったのかなっていう反省はあるんですけども、皆さんの各事業に少しずつ触れることができて、知ることができて、その経験がとても大きな財産になったと思います。残念ながら、私、第3期で一回終了しまして、確定ではないんですけども、大学院の夜間の授業とかに行きたいと思っているので一回終了なんですけども、またどこかで皆さんと関わって、今回受けた御恩を返せるような形で関わっていければと思っています。また今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

【委員】

私は2年間御世話になったんですけども、前半一年間は印刷会社にも籍を置きながら活動していたもので、なかなか参加ができなかったです。久しぶりに参加したと思っても、グループ内で質問をしたところ、「実はこの間、同じ質問があってそのお話したんですよ」とかっていう始末で、なかなか皆さんと情報を共有しづらかったのかなと思います。平日夜の7時はオフィスに戻ってこれからデスクワークするみたいな時間で、なかなかこっちに来るっていうところが難しかったなかで、自分なりにこのU40にどうやって関わっていこうか、どうやって向き合っていったらいいのかっていうのが分からなかったんですけども、土日とは幸い時間に自由が利くので、土日にあるイベントとかで協力できてすごく良かったです。2年間御世話になりました。

【委員】

第3期では、情報発信事業のリーダーを務めさせていただいて、今メンバーからこれほど言っていたいたんですけども、助けてもらえばかりで、何とか形にできたと思っています。最初に会長からアドバイスを一つもらいまして、今回、

ボランティアみたいな形で、みんなが仕事しながら活動をやっていくので、一つリーダーとして心掛けたことは、楽しく、みんなが参加するのが嫌な雰囲気にならないように、というアドバイスをもらっていたので、その部分に関しては、何とかみんな楽しそうにやってもらえる雰囲気はできたのかなって思っていて、情報発信チームが一つのチームだっているという形で、みんなの中で仲間意識が生まれてきたのが良かったのかなって思っています。

自分自身、普段はウェブ制作という形で、いろんな企業や自治体さんとホームページとか情報発信の活用の話をしていくなかで、この「#upTAK」の活動とかどういう取組をしたのかという話を話すことが増えて来ているので、自分自身の成長とかいろんな経験にもつながったなと思っていますので、こういう経験をさせてもらって本当によかったなと思っています。来期の第4期も事業報告会で失敗しなければ、継続して第4期のメンバーに参加できると思っていますので、引き続き第3期で卒業されるいろんな皆さんのできなかったこととかやってほしかったという思いをしっかりと引き継いで、いい第4期につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

【委員】

第2期と第3期で4年間、御世話になりました。私は前回の第8回を欠席しておりまして、次期の第4期に向けての課題というところで、私が感じているのは、他の方も前回お話しされた方がたくさんおられるようですが、やっぱりU40に対して何が求められているのかというのを、一番最初の時点で事務局側から出してもらってというのがまず欲しいと思いました。特に第2期が、途中、空中分解しそうになったり、大変な時期もありました。これから第4期の新メンバーが来られるときも、おそらく「U40ってなにやってるんやろ」「これからなにやるんだろ」というふうに入ってくると思うので、産業振興課として募集している限りは、産業振興課が何を求めているのかというのを、与えてあげなければいけないということを私は感じました。もう一つ課題としては、その反省もあって、今回第3期というのはチームごとに分かれてプロジェクトを進めていくというふうになりました。なので、方向性というのとはできてきたんですが、私への自戒も込めてなんですけども、情報発信事業はリーダーにすごくパワーがかかったんですね。第2期の時は議論だったので、割とみんな広く浅く同じような感じでパワーがかかってきたのが、プロジェクトになったら特定のの人に重いパワーがかかってきたというのが、私自身心苦しく思ったところでありました。

逆に、私がU40に入って良かったと思うところが、もともと私がU40に入ったきっかけとか動機というのが、どうしても自営業で定休日無しで宿をやっていると、宿から出ないんですね。チェックアウトで御見送りして、掃除やって、自分のお昼ご飯食べて、なんやかんやしてたらもうチェックインが来てっていう流れができてしまっているのを、ちょっとでも自分を宿から出そうという思いがあって宿から出てきました。実際出てきて、今回第3期過ごしていく中で、自分の宿にくるお客さんとU40がちょっとリンクするところが見えてくるんです。先ほど、パラ陸上事業の中で測れない成果という言葉が出てきましたけれども、例えば、あのパラ陸の時に私の宿に選手が宿泊されたんですよ。その時に、もちろん「CAN MAP」をお渡しして、すごい反応が良かったんですね。

その反応っていうのは、すごい便利なものだっていう実用性を喜んだというよりは、私を感じた思いとしては、自分たちはパラ陸でこの高松に迎えてもらっているんだ、自分たちのことを待っていてくれたんだっていう反応だったんです。私は、パラ陸上事業とは特に関わりがなかったんですけど、嬉しいなと思いました。たかまつ工芸ウィークの時も、あのパンフレットも当然持ってましたけれども、あのマップの通りに旅をする人がいたんです。北浜行って、シューレ行って、栗林庵の漆芸見てって感じで動いた方がいて、U40でやってることっていうのはうちに来る旅人たちにもつながっていたということを感じて、嬉しく感じたときでした。どうも4年間御世話になりました。ありがとうございました。

【市役所U40】

来期もお願いすることになっております。よろしく申し上げます。私がいままであまり関われない部分もあったんですけども、まず市役所に入庁した理由とU40に入った理由が、私の高校を出た友達がみんな県外に住んでいて戻ってこないんです。よく言われていますが、若い方が戻ってこないという状況で、大体聞いてみると「高松何があるの」「仕事もないし」「香川県は「うどん県それだけじゃない」って言うけどじゃあそれってなんなの」みたいな話をよく聞いて、発信しているけどみんなに知られていない周知されていないのが、私自身悔しいところがあり、それをどうにかしたいというところで市役所に入って、そしてU40に入って、何かできないかなって思って情報発信のチームに入らせていただきました。あんまり活動できなかったんですけど、来期は、情報発信というと、観光情報ですとか瀬戸芸の情報ですとか、どうしても華やかな方向に行きがちなんですけども、私の仕事である文化財を何か高松の魅力として発信するのにどうすればいいのかというのを日々考えているところです。今はフェイスブックにハッシュタグ「#upTAK」を付けるぐらいしか、できていないんですけども来期の課題として、私自身頑張っていこうかなと思っていますので、来期もよろしくお願いいたします。

【副会長】

皆様お疲れさまでした。2年間副会長という立派な肩書をいただいてやらせていただきました。私がU40に入りたかったのは、公募で応募したんですけど前期の会長からどう？って言われて、U40って響きがかっこいいなっていうのと40歳っていう期限の内にやらないとっていう感じで入りました。まさか自分が書いた応募用紙で通してもらって、2か月後に「副会長やりませんか」って言われるとは思いませんでした。その時に、他のメンバーを聞いたときから、もっともっとできる人がいるのになって引け目を感じていて、この2年間何ができたかと思うと、もう一人の副会長ほどの発信力もないし、会長ほどのまとめる力もないし、私がやってきたことといえばいつもその二人の横でにやにや笑っているっていう感じはしなくもないです。ですが、皆さんと一緒に何か先頭に立つっていうことは苦手なんですけども、一緒に楽しくやるっていうことだけは、結構やれるほうかなって思っています。いろんなところでいろんな方と一緒に、いろんなことをさせていただいたのがすごく有難かったと思っています。それもあって、今年の1月にNPO法人を立ち上げたりということもやってはいるんですが、ここでやらなかったら、きっと今後自分の中で沸くことがなかったら興味みた

いなのがすごくいっぱいあったと思っています。私は割と人に影響されやすいんですけど、影響されたその最たるものが、東京オリパラのボランティアに応募したことです。なので、私、2020年の夏はおりません。そんなこともきっとここで皆さんと何かさせてもらったり、こういうふうに意見交換をさせていただくことがなければ、多分この先興味を持つことがなかったらと思うことがいっぱいあります。そういう気持ちを持ちながら、来期もあと2年間やらせてもらったらなって思います。2年間で終わりの方、これからも御一緒の方、また今後もよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【副会長】

4年間、第2期第3期と続けて、第2期の時はある委員と寸劇をここでやったなあと思い出しました。第3期になって予算が付いたのではっきりとした目標があって動けたのがすごい良かったことでした。私は4つの事業全てに関わっているんですが、4事業ともにリーダーの進め方が全部異なっていたことが個人的にはすごい勉強になって、自分の個人的なプロジェクトの今後の進め方に、非常に参考になりました。来期以降、U40としては私は関わらないんですけど、一番危惧していることとして、来年は議論が中心なので予算はつかないんです。この部分に関して、来期はいないんですけど、結構事務局ともめたというか声を大にして予算はつけたほうがいいですよって言ったんですが、どうしても大人の事情で一年間議論しなきゃいけないです。そこは会長に一番負荷がかかる部分だと思うんですけど、第2期でやっぱり一番苦労したのはそこで、予算が無いなら無くなり何に目標を立てて動いているのかっていうところが、はっきりしないまま、ただ議論して最後にプレゼンして終わりになってしまわないように、ぜひ来年皆さん関わっていただければと思います。来年は瀬戸内国際芸術祭があって、2020年は東京オリンピック・パラリンピック、2025年にはさらに大阪万博もあるので、特に外国人観光客をはじめ多くの人が高松市に来られるので、こういった形で情報発信して海外の人に高松の魅力を届けるということ以外でも、高松の私たちの身の回りにある暮らしをどう改善して豊かな暮らしをしていくか、イノベーションをしていくかっていいきっかけになるんですね。例えば、パラリンピックとかすごい分かりやすいんですけど、ちょっとした段差のことって本当は日常的にあったことなんだけど、パラリンピックっていうもので外の人に来て初めて日常の不便なものとか、実はここ中国語すごい間違ってるみたいな場所に気が付くことが実はすごいあるんですね。そういったところを直してあげたりだとか、そういったことをぜひ今後、来年も再来年も外国人観光客がいっぱい来ると思うんで、自分たちの身の回りを豊かにするために何か提案できるということを、皆さん心掛けて何かできたら良いのではないかと思います。ちなみに、第2期の時に予算はなかったんですけど、他の委員たちと提案した中で、一つ、琴電の社長さんがいるチームの中で、空港に行くシャトルバスの案内に飛行機のマークをつけて非言語でピクトグラムで説明してあげたらより分かりやすいですよって提案をしたら、それをすぐに実現をして形になりました。予算は無いなら無くなり、形にできることはあると思うし、先ほど他の委員が言われたようにツアー会社があってこういう企画があってはまることはあると思うんですよ。高松市の予算じゃなくて民間の事業者さんとコラボして、アイデアを載せていくことも多分可能性と出てくるので、そういったことで来期以降も皆さんで

楽しく回していければいいのかなって思いました。4年間ありがとうございました。

【会長】

皆さん4年間ありがとうございました。最初お受けするときに、私はもう高松市の仕事はしないつもりでいたんですが、U40だけはやってもいいなと思っていました。というのは前の第1期・第2期っていう存在は、私が東京にいたときからU40という事業があることは知っていたので、唯一興味を持っていたんです。なので、いろんな委員をさせていただく中でも全部断るっていう方針にしていたんですけど、唯一お受けしたのがこのU40でした。受けてみたら会長をやってくださいってなって、やらせていただいたんですが、蓋を開けてみたらめっちゃ大変でした。忘れもしないんですけど、90ある事業の中から4つに絞り込む作業とか、ちょっと尋常じゃなかったです。これだけか脱落したらどうしようって心配もしました。第1期と第2期の大変だったことは、割ときちっと委員だった人からヒアリングをして、何が上手くいかなかったのかとか、何で失敗したのかというところは、自分の中である程度を全部事例として押さえて、そうならないためには、チームとして何ができるのかっていうチームビルディングだけを私はしていました。

その中で一番やりやすい方法は、先ほど副会長がおっしゃっていましたが、何か具体的な目標がなければ、絶対に人は動かない、モチベーションは湧かないということで、いろいろ当時事務局の方と折衝をしながらお話も相談もしながら、U40の中で考えたものをシビアに精査していただいて、予算化できるものはないだろうか出させる土俵に上げてくれるという相談をかなりさせていただきました。当然、その全てが反映されたわけではないですけども、この範囲だったらいいですよってゴーサインが出たときに、初めてチームで動き出して、先ほどもからお話いただきましたけどもチーム制にしたがゆえに、大変なことも起きましたし、チームだからこそ予算がついたからこそやりきらないといけないということもありましたけど、じゃあやってみてどうだったかとなったときには、皆さん御存知のとおり様々なところで波及効果が生まれ始めている。この生まれ始めているっていう段階で、まず第3期がお終いになるというところをまた第4期にどうつなげていくのかっていうのは考えないといけないところだと思っています。

でも、同じ手法ではつまらないと思っています。私がそれこそ2年前にこの部屋で、「できない理由よりできる理由を探しましょう」ということを皆さんにお話ししました。その時に一つあったのがですね、こういうものを作っていけばいいんじゃないのか、こういう予算取りをすればいいんじゃないのかっていうことで皆で知恵を出し合って、初めて形になったんです。皆さんがいろいろと会長がまとめてくれたとかいうんですけど、折衝はしましたけど、皆さんから出てきたものを形づけただけなので、なので何かできたという評価があるのは、多分皆さんと一緒にできたからなのかなと思っています。

多分、高松市にある様々な委員会がある中で一番緩そうに見えるんですけど、一番実働している、議論だけじゃなくて何かを事業を起こしているっていうのが、U40なのかなって思っています。それは私何が感じるかっていうと、全国いろんなところ行くんですけど、なにが聞かれるかっていうとU40が一番自治体の

人に聞かれるんです。「U40ってあの会長がやってるあれ何をどうやってるんですか」「どういう仕組みで動いてて事業やってるんですか」ってめちゃめちゃ聞かれるわけです。逆に言うとある香川県内のある自治体の方に聞かれたのは、「うちの地域ではU40みたいなことをやりたくてもU40でこれだけの人が集まらない」っていうことを実は先週言われたわけです。それはもしかしたらそうかもしれない。でも高松市っていうのはU40やりましょうって言って、仕組みを作って、そこにいろんな人たちが集まって来たらこれだけのことができるんだっていうことを一つ見せれたというのは何かそこに大きな可能性があるのかなって思っています。第4期に新しいメンバーも加わって、新しい化学反応も生まれてくると思うので、今言いますけど第4期で私は絶対卒業しますので、第3期と第4期はなんか上手くいったけど第5期以降はちょっとな、っていうのではなくて、どうやったらそれが永続的に続いていくどういう仕組みを作っていけば、ここ5年もっと言えばここ10年ぐらい若い人たちの意見をどう汲み取っていけば高松っていうまちが本当に創造都市になっていくのかっていうところとして、次の2年間というのが一番大変じゃないかなと思っています。そういう覚悟で私も継続してやらせていただく覚悟でいますし、今日卒業した方々も任意団体「upTAKAMATSU」のメンバーではあるので、私はそっちですごくいろんなことを、お金を取ってきて自分たちで自主事業をやるとかそういうこともトライ&エラーをしながら具体的にできればいいので、引き続きコミットし続けていただければと思います。

あと最後にもう一つだけ言えるのは、複数のメディアの方から、今年高松市で面白いことしてるなとか人が集まるときに、U40の誰かがいるかU40がやってるって言われたことが私一番嬉しかったんです。「このハッシュタグって「upTAK」がやってるんや」「「upTAK」ってU40から出てきたんや」「そういうのに絡んでいますね」って、一人ではなくて複数のメディアの方に言われたときにこれは本当にやってよかったんだなと思いました。だから先ほど冒頭に私の感想の時に、成果は出てるんだよっていったわけです。だからその成果をどうか顕在化、つまり皆さんの力で見えるような形にさせていただいて、もっと言うと第1期と第2期の人も含めて、このU40に関わった人たちが、もっと大きく動けるようになるかそういう仕組みが作れたらなって思っていますので、今日で卒業される方も継続される方も是非引き続きU40に関わり続けていただいて取り組んでいければなって思っています。本当に2年間ありがとうございました。

ぜひ最後に事務局から一言いただければと思います。

【事務局】

ちょうどこれで6年が終わろうとしています。私は当時も関わっておりましたが、この3月まで香川県に2年間仕事で行っておりました。香川県では福祉の仕事をしておりました。主には長寿、子育て、障がい、超高齢化、孤立死、薬物乱用・薬物中毒、幼児虐待、子供の貧困、自殺対策など私たち日本国民の中で今起きている様々な問題に直面してまいりました。高松市に帰ってきたときにまた創造都市をやらせていただいておりますけども、この2年間いろいろな生き方というか苦しみがいておられる方をいっぱい感じ取ってきました。私として非常に感ずるところとしてじゃあこの創造都市っていったい何だろう、どこで結びつくのかっていう話はあるんですが、こんな苦しい生活を送っている人もやはり少し

でも幸せになりたい、生活が楽になりたいということを苦しみながら頑張っているわけです。そういう人にとって自分が住んでいるまちってというのはやっぱり幸せのフィールドでなくっちゃいけない。ということはどういうことかという、私たちがやっている創造都市というのは、その人たちにとっても光であり希望でもある。これは決して綺麗ごとではなくて、少しでも自分の生き方というか幸せになるための生き方というか、それをここにもう一度振り返ってみて、今自分に何ができるんだろうというところを、どの世代でもやらなければいけないのかなとここ最近ずっと感じております。

今日皆さんが一人一人感想を言っていただいたんですけども、ちょうど私が2年前にお願いをして、今日感想を聞いて非常に、胸に嬉しさといいますか、良い反応が出ているなというふうに思っています。当時、色々仕事をやっていて一番思うようにいかない仕事がこのU40の仕事でございました。自分の子どもと同じ世代の方々を同じ方向に向けて進めようというのは非常に難しいし、市役所として苦手なフィールドではないかと思っています。とはいえ、いかにこういった人が集まってぶつかり合って議論しあって化学反応が起こるかっていうことが、高松の財産になるのではないかと信じてやっております。

引き続き、第4期も引き受けてくださる方については、来年の報告会も皆さんの御了解もいただけるのであれば、第1期の人も第2期の人も呼び出して、報告会を聴いていただこうかと考えております。そのあとは懇親会もやってはどうかと思っております。「upTAKAMATSU」という任意団体もできたことですから、4年間継続性をもってU40をやっていきながら、高松がどんどん発展していくという継続性も必要なのではないかと思ったりもしております。今回の4つの事業も本当に良かったし、日本パラ陸上競技選手権大会で私本当に感動いたしました。そのようにこれからも感動をつなげていけるような、そんなU40であってほしいなと思っております。思いっきり意見をぶつけ合って、高松を良くするために自分の人生を豊かにするために今後も頑張っていただけたらと思えます。第3期の皆さん本当にありがとうございます。

4 閉会

(事務局から事務連絡の後、閉会)